

# 個人の生活時間制約を考慮した通院・買物交通の評価

社会システム計画学研究室2012年度卒業研究 田尾圭吾

## 研究の背景

### 中山間地域

高齢化や過疎化  
⇒自動車の運転が困難、家族等の支援や送迎が受けられない人の増加

生活を支えるための公共交通体系の構築が各地で進められている

しかし…  
・公共交通  
一般に運行時刻や路線(目的地)が決まっている  
・自動車を利用できない人  
公共交通の便数やルートによっては、**待ち時間や移動時間が長くなり、生活に影響があるのでは?**

公共交通利用者と非利用者との生活行動の実態を把握し、求められる公共交通の要件を明らかにする必要がある

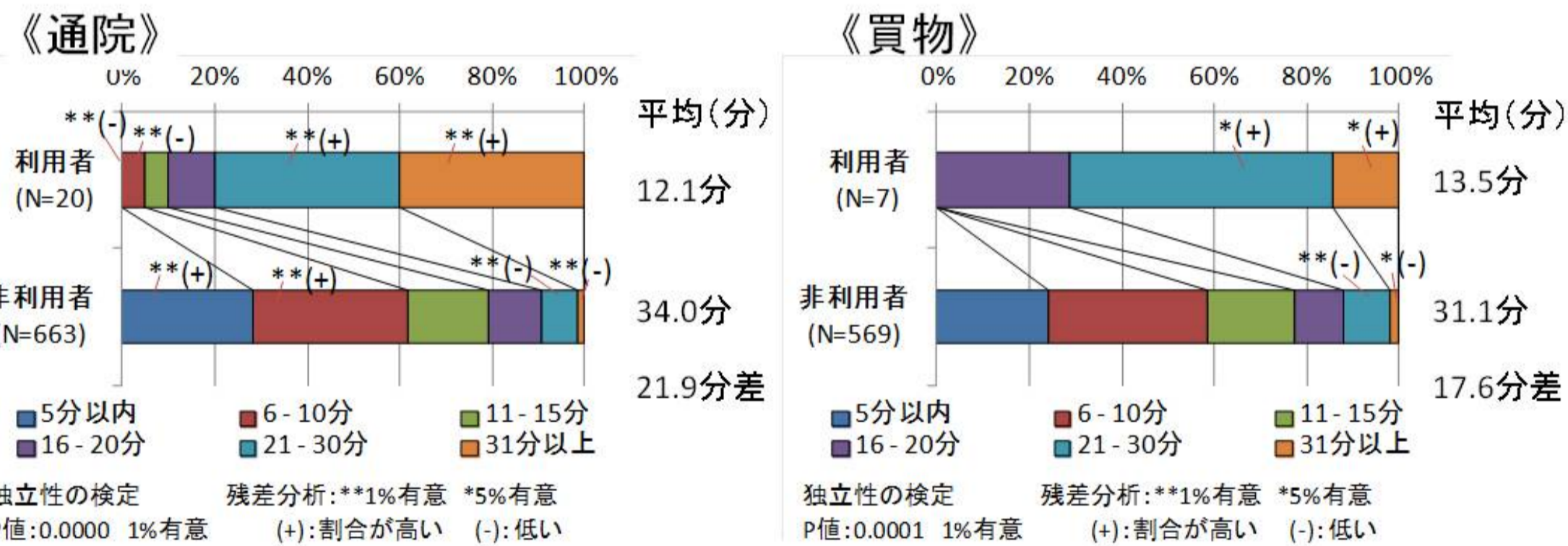
## 研究の目的

外出による生活行動の時間制約の有無を把握し  
交通評価との関連性について明らかにする

- 掃除・洗濯・食事などの生活行動と通院・買物行動の行動時間帯や所要時間との関係について把握
- 交通手段による生活行動と外出行動の行動時間帯の重なり度合いの違いから公共交通評価の違いを把握

## 分析結果

### ◆公共交通利用者・非利用者の違い(目的地までの時間)

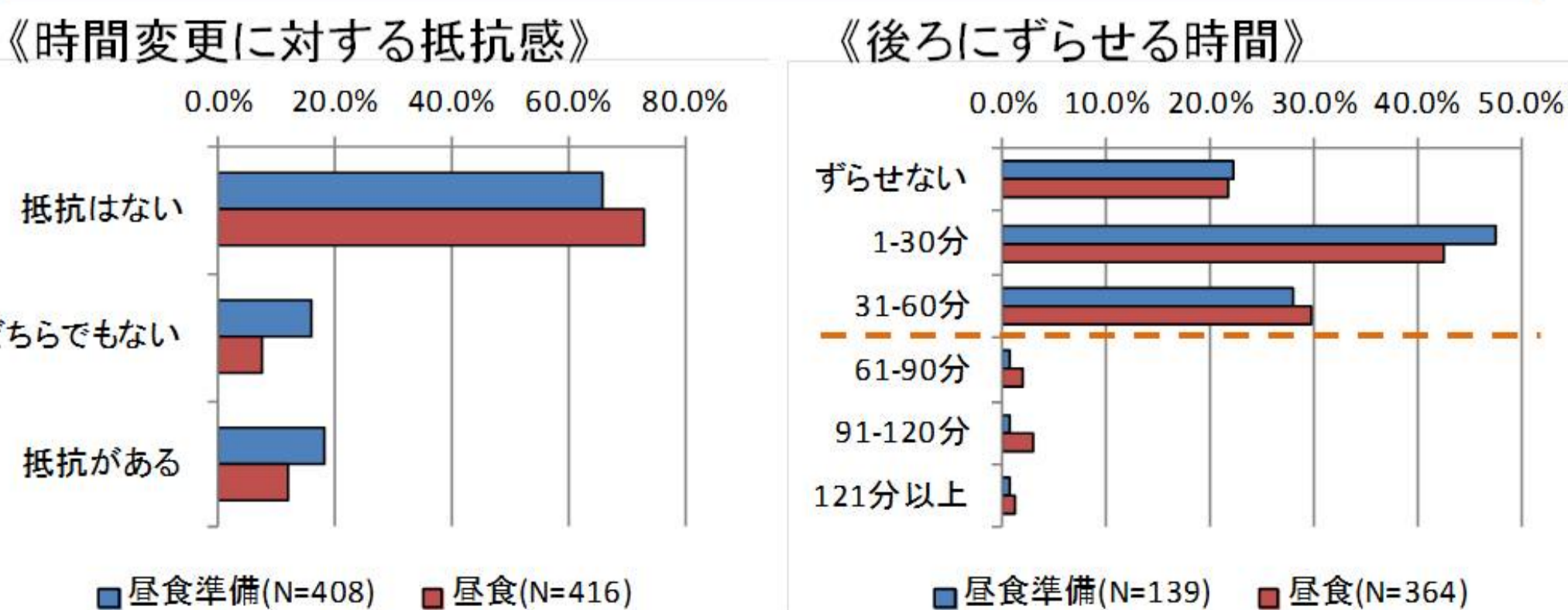


公共交通利用者の方が移動時間(片道)が**20分程長い**

### ◆生活行動と外出行動の時間帯

	5時以前	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時以降
掃除(N=248)	1%	8%	22%	34%	23%	6%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	1%
洗濯(N=488)	8%	27%	26%	16%	3%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%	3%	9%
朝食準備(N=593)	14%	54%	27%	5%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
朝食(N=930)	4%	27%	54%	14%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
昼食準備(N=399)	0%	1%	1%	1%	2%	63%	29%	3%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
昼食(N=937)	0%	0%	0%	0%	0%	12%	82%	5%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
夕食準備(N=538)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	13%	45%	30%	8%	2%	0%	0%
夕食(N=946)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	12%	48%	31%	6%	2%	0%	0%
通院出発(N=662)	1%	5%	22%	26%	20%	8%	2%	1%	3%	3%	4%	6%	1%	0%	0%	0%	0%
通院帰宅(N=649)	0%	0%	0%	5%	16%	28%	20%	6%	4%	5%	6%	1%	0%	0%	0%	0%	0%
買物出発(N=594)	0%	1%	4%	14%	34%	7%	2%	9%	7%	5%	5%	7%	4%	1%	1%	0%	0%
買物帰宅(N=593)	0%	0%	0%	1%	12%	24%	16%	3%	8%	8%	7%	7%	7%	4%	1%	1%	0%

通院・買物からの帰宅時間と昼食準備・昼食の開始時間が重なっている

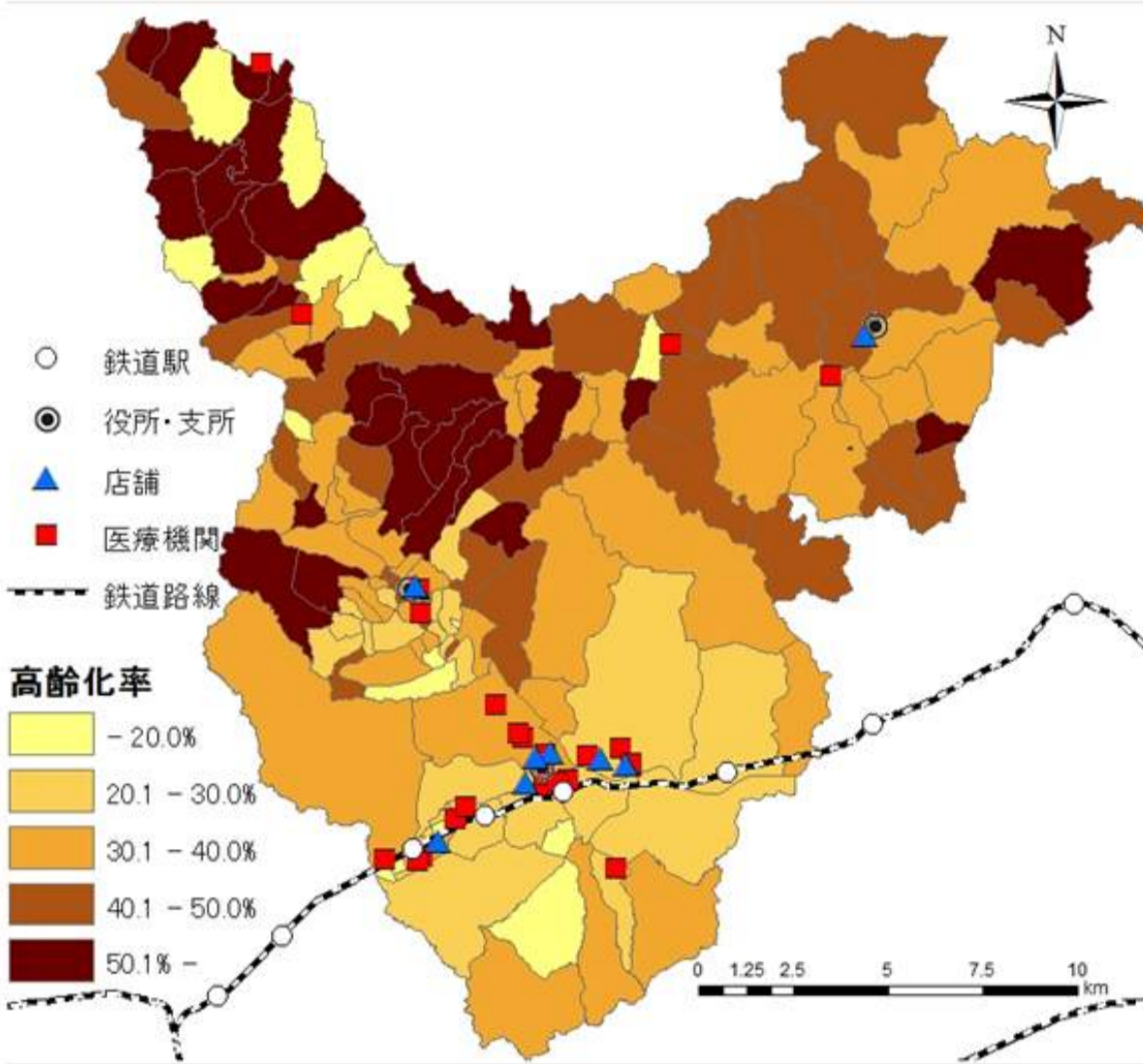


昼食準備・昼食の時間を変更することに**抵抗はないが**  
時間を60分以上後ろに動かすことは**難しい**と考えられる

## 分析対象地域と使用データ

### 岡山県井原市

	平成22年	人口(人)	高齢化率(%)
井原地区		33,951	28.8
芳井地区		5,131	37.6
美星地区		4,845	41.4
井原市全体		43,927	31.3

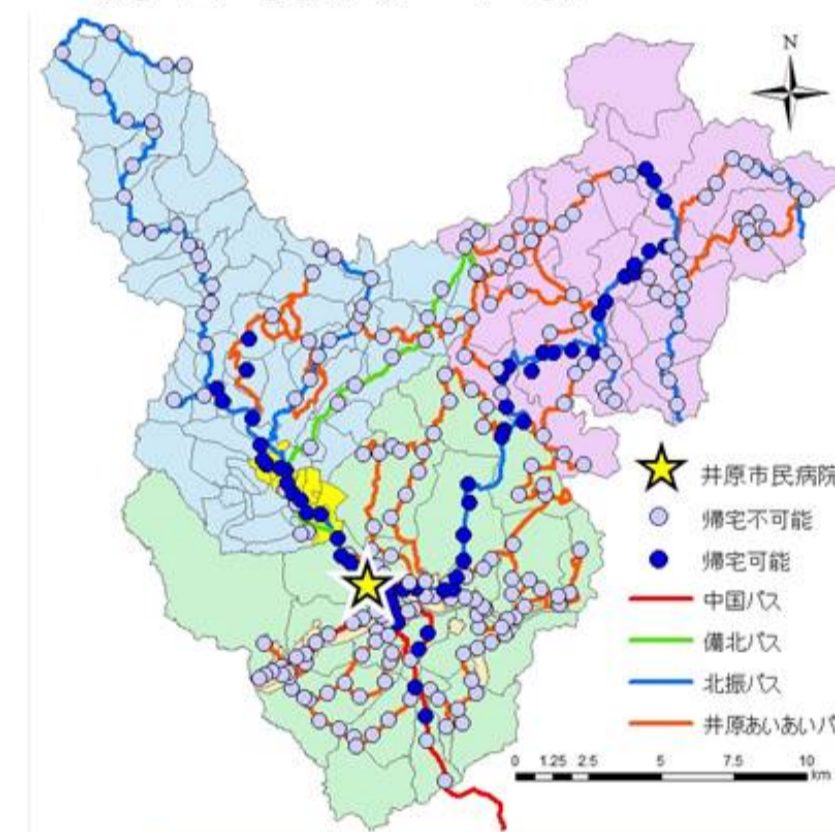


- 北部を中心に**高齢化**が進んでいる
- 店舗・医療機関が**中心部に集中**
- 企業のバス事業廃止により、住民の生活への影響を最小限に抑えた公共交通体系の**早急な構築**が望まれている

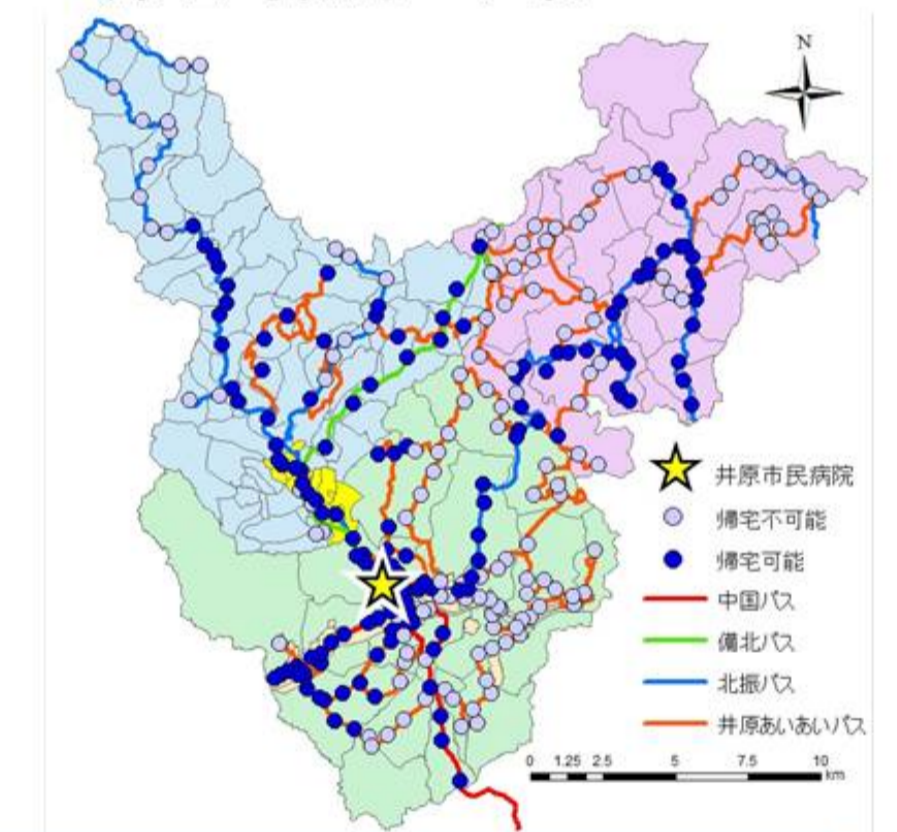
### アンケート調査の概要

調査名	井原市の公共交通及び持続可能性を 考えるためのアンケート調査
調査対象地域	岡山県井原市全域
配布・回収方法	無作為抽出後、郵送配布・郵送回収
調査時期	2012年12月
配布票数	2,475部
回収票	1,136票
有効サンプル数	1,131票
回収率	45.9%
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●普段の生活行動(掃除・洗濯・食事)</li> <li>●日常の通院・買物行動</li> <li>●公共交通の利用意識と存在意識</li> <li>●移動販売・在宅医療などの利用状況</li> <li>●個人属性</li> </ul>

### ◆12時までに市民病院から帰宅可能なバス停



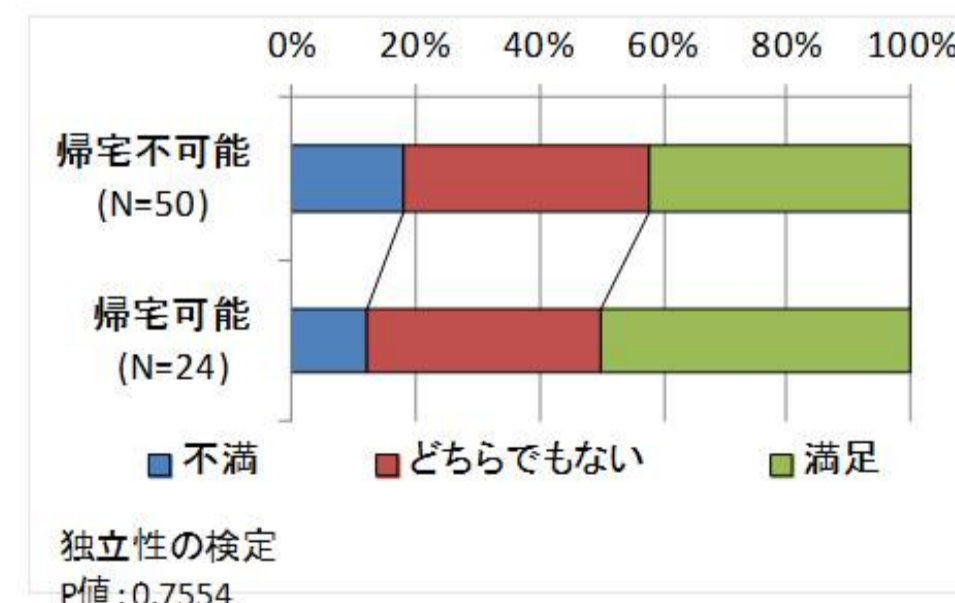
### ◆13時までに市民病院から帰宅可能なバス停



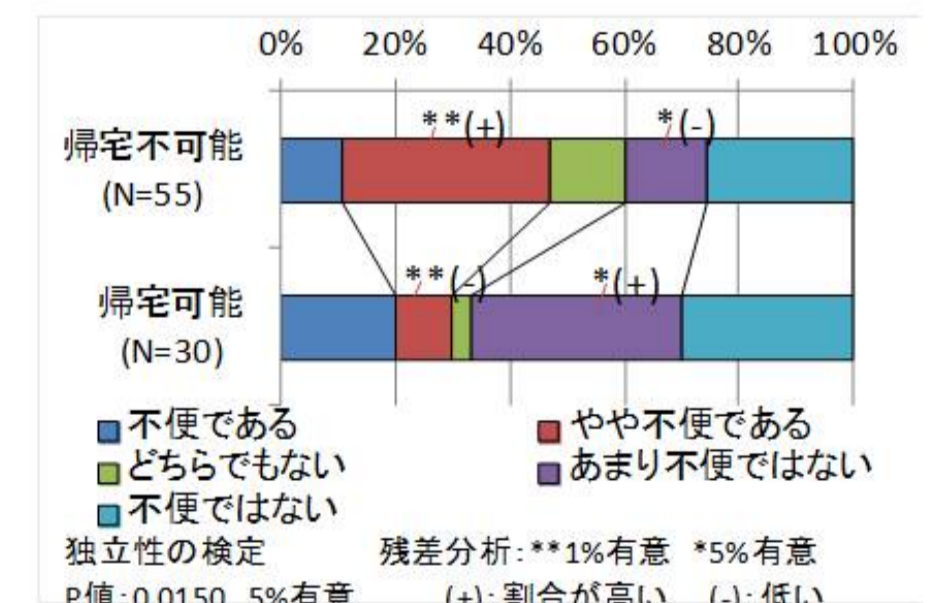
郊外部だけでなく路線によっては**中心部周辺でも帰宅できない**

### ◆帰宅可能者と帰宅不可能者の意識の違い(13時まで)

#### 《公共交通評価》



#### 《通院不便の状況》



## 結論

- ・通院と買物の時間帯は、**昼食の準備と昼食の開始時刻**に重なる場合が多いことが分かった
- ・昼食準備や昼食の時間までに帰宅できないことは、公共交通の評価に対しては大きな影響を及ぼさないが、通院に対して**やや不便**だと感じている割合が高いことが示された

生活行動の時間までに帰宅できないことは、不便だと感じる要因の中での**優先度は高くないが、要因の一つとして考えられる**可能性がある

不満や不便と感じさせないためにも、**生活行動の時間を考慮したバスダイヤ**を考えていく必要がある